

01 松下電工インフォメーションシステムズは10月1日、社名を変更します。

当社は、2008年10月1日付で社名を「パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社」(英文表記: Panasonic Electric Works Information Systems Co., Ltd.)に変更します。Panasonicブランドの価値向上にグループ力を結集する一方で、当社も「Panasonic」というブランドの持つ強みを存分に活かし、さらなる飛躍を図るため、社員一丸となって邁進していきます。

※6月開催の定時株主総会にて承認されることを条件として変更します。

社 名	
松下電工インフォメーションシステムズ株式会社 (英文表記: Matsushita Electric Works Information Systems Co., Ltd.)	↓ 2008年6月定時株主総会
2008年10月1日より パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社 (英文表記: Panasonic Electric Works Information Systems Co., Ltd.)	

02 2008年度経営方針は「『新』への挑戦 — 新しい自分、新しい会社 —」

当社は新社名で設立10周年を迎えます。ひとつの節目と門出を迎えるにあたり、新たな気持ちでチャレンジを続けていく、という決意を込めて、2008年度の経営方針を「『新』への挑戦」としました。具体的なテーマは「新記録の達成」「新商品の創出」「新しいヒットへチャレンジ」とし、計画達成に向けた取り組みを進めていきます。

2008年度 松下電工インフォメーションシステムズ経営方針

『新』への挑戦

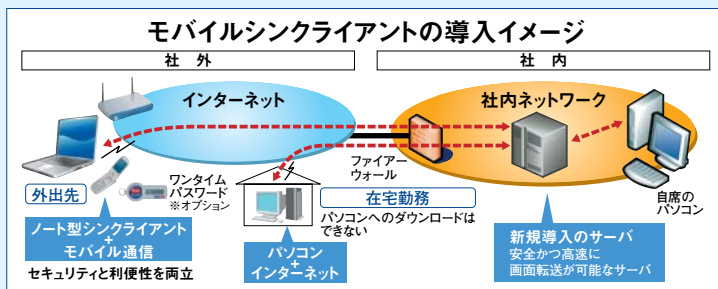
- ・新記録の達成
- ・新商品の創出
- ・新しいヒットへチャレンジ

社長 河村 雄良

03 利便性とセキュリティを両立、新しいシンクライアント・ソリューションの販売を開始!

当社はこのたび、モバイル環境においてもシンクライアント端末(記憶装置を持たないパソコン)を自席と同じ環境で使用できるソリューションを開発、販売を開始しました。ユーザーの使い勝手と自由度を高め、情報漏えい対策などで注目を集めるシンクライアントを導入しやすとしたソリューションです。

商品に関するお問い合わせ先 ソリューション営業本部
東日本営業部 03-3563-6660
西日本営業部 06-6377-0050



あいえず☆うらばなし 立派な社会人への第一歩は精神修行?! ちょっと変わった新入社員研修

当社の新入社員研修には、学生気分を一掃する「修行」が盛り込まれています。それは、禅寺での坐禅。今年も4月14～15日の2日間、黄檗山萬福寺で研修を行いました。29名の新入社員には、坐禅・写経や食事作法など、すべてがこれまで味わったことのない驚きの体験だったようです。とはいえつらい? 修行から得たものも大きかったらしく「さまざまなしきたりを守ることで忍耐の大切さを学んだ」「問題意識を持つことで、新しい発見があるとわかった」「自分にも他人にも目を配ることの重要性に気付いた」といった感想が続々。若さならではの吸収力をみせてくれました。



編集後記

松下電工ISの様々なニュースを紹介する「IS CLOSE UP」は、年6回発行予定です。新製品・サービスの情報提供にとどまらず、開発や運用のトピックスなども取り上げます。ご意見・ご感想など、どんどんお寄せください。お待ちしております!

発行元

松下電工インフォメーションシステムズ株式会社
総務部 広報・IRグループ
〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー16F
TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 http://www.naisis.co.jp/
※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

松下電工インフォメーションシステムズ

IS CLOSE UP

アイエス クローズアップ

2008.5 Vol.1

Top INTERVIEW

新たな一步を、みなさまとともに。

松下幸之助創業者が松下グループの礎を築いてから、今年で90年。この歴史ある松下グループにおいて、私たち松下電工インフォメーションシステムズの歩みも、まもなく10年を迎えようとしています。私たちは、松下電工の情報システム部門時代から約50年にわたりシステム構築に携わるなか「企業は社会の公器」「すべてはお客さまのために」という創業者の精神をしっかりと受け継いでまいりました。

情報システムを通じて「お客さまにとって」最大の価値を提供する。「お客さまが望む、将来ありたい姿」の実現に、ITで貢献する。お客さまの未来へ向かう道のりを、ともに歩む。

これらは、私たちが社会に存在する意義であり、今めざす「Value Designer (バリューデザイナー)」の姿でもあります。

本年10月には社名を「パナソニック電工インフォメーションシステムズ」に変更し、当社は、また一步新たなステップを踏み出します。この記念すべき年にスタートする「IS CLOSE UP (アイエスクローズアップ)」がみなさまへの架け橋となり、みなさまとともに歩む道のはじまりになることを願いつつ、創刊のご挨拶とさせていただきます。



松下電工インフォメーションシステムズ株式会社
取締役社長 河村 雄良
Takeyoshi Kawamura

Close Up

松下電工インフォメーションシステムズ(松下電工IS)の歩み

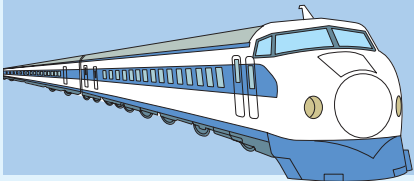
— 歴史に裏付けられる確かな技術 —

当社のルーツは松下電工の情報システム部門。50年近くにおよぶ歴史のなかで培った確かな技術と豊かな知識を今、グループ外にも幅広く展開し、お客さまにお届けしています。

1961
パンチカードシステム*を導入

人事・経理業務の効率化を目的としたコンピュータ導入が主流のなか、松下電工は営業力の強化に主眼を置き、売上統計・品番体系の整備からコンピュータ化に着手しました。以来、同社はコンピュータ経営による効率化と提案営業の推進が社の発展につながるとしてシステム開発を続けていきました。


【60's 社会のできごととコンピュータ】
1964年
東海道新幹線開通・営業開始による「みどりの窓口」などの本格稼働



*パンチカードシステム:パンチ穴をあけた伝票(カード)で各種集計を行う仕組み。

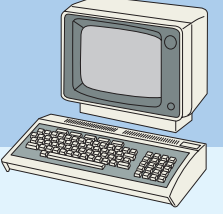
1971
国内製造業初の完全リアルタイムオンライン受発注システム「アローシステム」開始

「これからはオンライン化が不可欠」と、時代の一步先を読み日本IBMと共同で開発。代理店からの各種問い合わせに3秒間で応答可能という、当時としては常識破りのスピードを誇り、以後、松下電工の発展に不可欠な存在へと進歩していきました。



当時の端末機
(写真は1980年代に活躍したもの)

【70's 社会のできごととコンピュータ】
1979年
国内初の本格的パーソナルコンピュータ発売(NEC)



70's

60's

*EUC(エンドユーザーコンピューティング):システム利用者(エンドユーザー)が、直接的・主体的にコンピュータを操作したり、システムの設計や構築に関与したりすること。

1988
EUC*の先駆け情報検索ツール「MAGIC」導入

ユーザーの条件登録により、個々の用途に即した売上情報を随時取り出すことができる情報検索ツールを独自開発。その結果、リアルタイムでの営業施策立案が可能になっただけでなく、月間40万ページもの紙資源の削減を実現しました。


【80's 社会のできごととコンピュータ】
1983年
ファミリーコンピュータ発売(任天堂)




90's

1992
オンライン情報ネットワークシステム「ニューアロー」本格稼働

従来の商品受発注業務を中心とした販売・物流情報システムに提案営業システムを組み込んだ最新鋭のシステムを開発・導入。代理店端末からの特注品発注や、商談しながらの見取り図変更などにも対応し、現在に至るまで営業活動を強力に支えています。



【90's 社会のできごととコンピュータ】
1996年
Yahoo! JAPAN サービス開始



現場で戦いながら「限界」を乗り越えてきた。

トダ 常務取締役 砥田 勉

松下電工グループのシステム化の歴史は「数と量との戦い」の繰り返しでした。コンピュータに登録できる端末台数にシステム上の限界があるにも関わらず、早くから受発注システムのオンライン化に取り組んでいた松下電工は、代理店や協力会社までを網羅する数万台規模の環境を必要としていたからです。さらに、この数万台の端末機から入力されるデータ量は1秒間に100件を優に超えており、システム構築には、何としてでもこれらの限界を乗り越える必要がありました。現場で七転八倒の戦いを続けながら、私たちは既存の枠組みに囚われない新しいアイデアを生み出し、前進してきたのです。先取の精神とチャレンジ精神、最後まであきらめない粘りが私たちの持ち味です。これからも、このスピリットを受け継ぎ、挑戦を続けたいと思います。

1999 松下電工インフォメーションシステムズ設立

会社設立以降

松下電工から独立後、これまで培った技術力と積み重ねた実績をお客さまのシステム構築や運用に活かしているほか「シンクライアント」「eラーニング」「コールセンター」など、さまざまなソリューションを提案しています。お客さまとともに歩みながら、お客さまご自身のありたい将来像をITによって実現する「Value Designer」となるため、松下電工ISは今後も前進していきます。



松下グループの精神

「綱領・信条」と
「遵奉すべき精神」

松下グループの企業としての使命、それは「綱領・信条」そして「遵奉すべき精神」にあらわされています。1918年の創業以来、事業が順調に発展・拡大するなかで、松下幸之助創業者は「企業は社会の公器」であり、企業はその活動を通じて社会に貢献する使命を持つと考えているようになりました。そして1929年、この考えをもとに「綱領信条」を制定しました。

△綱領▽
産業人たるの本分に徹し
社会生活の改善と向上を図り
世界文化の進展に寄与せん
ことを期す

△信条▽
向上発展は各員の和親協力を
得るに非ざれば得難し
各員至誠を旨とし一致団結
社務に服すること

1933年には従業員が日々働くうえで心得であり、行動指針となる「遵奉すべき精神」を定めました。これは七精神と呼ばれており、私たちは今も各職場での唱和を継続して行うことで、松下グループで働く者としての心構えを深く浸透させています。

「遵奉すべき精神」

一、産業報国の精神
二、公明正大の精神
三、和親一致の精神

一、力闘向上の精神
二、礼節謙讓の精神
三、順応同化の精神
四、感謝報恩の精神

真にお客さまのお役に立つようチャレンジを続け、それを社会全体の発展につなげる。創業者の心を今に受け継ぎながら、松下グループの一員である当社も邁進しています。